

②しなやかに立ち直る復旧・復興

災害発生直後から、ライフラインが確保されるなど、迅速な救助や復旧・復興に向けて経済社会システムが機能し、災害が起こっても人的・物的被害を最小限に抑えることができている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 60代の男性。妻、妻の母（90代）と丹波の多自然地域で暮らしている。
- 住んでいるのは、30世帯、100人ほどが暮らす山間の集落であり、町の中心部までは車で20分ほどかかる。ハザードマップを見ると、我が家の近辺は土砂災害警戒区域に指定されており、いざという時にはすぐに義母を連れて避難できるよう、非常持ち出しグッズをいつも用意している。

<避難体制>

- 昨日から接近している台風の影響で風雨が強まり、昼前に土砂災害警戒情報が出た。登録しているひょうご防災ネットに市からの避難勧告が配信されたので、風雨が小康状態のうちに、避難所に指定されている集会所にやってきた。義母、妻のほか、隣家で一人暮らしの80代のおばあさんにも声をかけて一緒に避難した。
- 夜になると、雨も風も激しくなってきた、とうとう停電して辺りは真っ暗になった。けれど、集会所はすぐに太陽光発電と蓄電池を使った自家発電装置に切り替わり、灯りと空調が途絶えなかったので有難かった。
- 地域でお金を出し合って集会所に備蓄していた非常食や水、毛布を使って食事を済ませ、就寝した。
- 朝起きると、台風一過ですっかりいい天気になっており、自宅に戻った。災害に強い森づくりをはじめとした長年の治山対策のおかげで、周囲の山で土砂崩れは起きなかった。

<災害ボランティア>

- 県内では被害はなかったが、台風は日本列島を縦断しており、他の県では家屋に土砂が流れ込むなど大きな被害が出ていた。ボランタリープラザによるボランティア募集に申し込み、私も被災地に向かうことにした。災害ボランティアには交通費の割引がある。
- 現地までの道路は一時通行止めになっていたが、ドローンを使って把握した被害状況に基づいて復旧作業が行われたので、翌日私が現地に到着した頃には、予想されたよりも早く周辺の道路は通行できるようになっていた。
- 被災地では断水が続いていたが、避難所には兵庫県が重要性を発信していた防災井戸が確保されており、トイレの水は確保できていたので、被災者や救援者の助けになっていた。

【県内での風水害の発生状況】

	災害の名称	発生年月日	死者	負傷者	被災地域	
梅雨前線等	梅雨前線による豪雨	昭和7.7.1~2	44人	19人	主として東播磨地域	
	梅雨前線による豪雨	昭和13.7.3~5	731人	1,463人	県内全域（特に神戸市）	
	梅雨前線による豪雨	昭和36.6.24~28	41人	119人	阪神・淡路・東播磨地域	
	昭和42年7月豪雨	昭和42.7.9	100人	102人	阪神・淡路地域	
	昭和46年7月豪雨	昭和46.7.17~18	22人	100人	西播磨地域	
	平成26年8月豪雨	平成26.8.16~17	2人	4人	主として丹波地域	
台風	室戸台風	昭和9.9.21	281人	1,523人	県内全域（特に神戸・但馬・淡路）	
	枕崎台風	昭和20.9.17~18	19人	62人	県内全域（特に宍粟、但馬）	
	阿久根台風	昭和20.10.8~11	231人	92人	県内全域（特に西播磨、東播磨、但馬）	
	ジェーン台風	昭和25.9.3	41人	904人	県内全域	
	伊勢湾台風	昭和34.9.26	19人	242人	主として但馬・丹波地域	
	台風16号	昭和35.8.29	32人	65人	主として神戸・阪神地域	
	第2室戸台風	昭和36.9.16	10人	134人	主として神戸・阪神・淡路・但馬地域	
	台風23、24号	昭和40.9.10~17	39人	765人	県内全域	
	前線及び台風17号	昭和51.9.8~13	16人	41人	県内全域（特に宍粟郡一宮町）	
	前線及び台風10号	昭和58.9.24~29	行方不明3人 13人	16人	県内全域（特に東播磨・丹波地域）	
	前線及び台風19号	平成2.9.17~20	行方不明1人 2人	12人	県内全域	
	台風第23号	平成16.10.20~21	26人	134人	県内全域（特に但馬・淡路）	
	台風第9号	平成21.8.9~10	20人	7人	主として西播磨地域	
				行方不明2人		

(注)昭和以降の死者20人以上の災害に加え、流出土砂量の大きかったもの、海岸被災箇所が多かったもの等を記載している。

(出典：兵庫県「兵庫県強靱化計画」)

見えてきた兆し

【避難所への再生エネルギーの導入（篠山市三熊自治会）】



(出典：兵庫県「「エネルギー自立のむら」認定集落・公募要領」)

【災害ボランティア】



量などの搬出作業



家壁の泥出し作業



炊き出し



被災地で行われた復興イベント

【CGハザードマップ（県）】



復興への想いを書き記すメッセージボード（羅海博）



ボランティアに感謝する看板

(出典：(社)佐用町社会福祉協議会「佐用町台風第9号豪雨災害 佐用町災害ボランティアセンターときらめき復興支援センターの記録」)

【専門家等の意見】

○災害時に備え、災害支援のプロであるNPOを中心として、行政のほかこうした草の根の活動を実施しているグループや団体が活躍する仕組み・ネットワークが構築されれば、災害時に大きな支援の力・復興の力となる。(ひょうご震災20年ボランティア活動検証報告書 有識者メッセージ生活協同組合コープこうべ理事長山口一史氏)